



Storybooks Canada

storybookscanada.ca

小さな種：ツンガリ・ブータイの物語

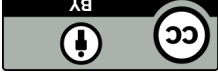
Written by: Nicola Rijdsdijk

Illustrated by: Maya Marshak

Translated by: Kei Fukumoto, Konomi Nakagawa,

Sayaka Yamamoto, Saari Yoshida

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons

[Attribution 4.0 International License](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0).

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0>



Level 3

Japanese

Yamamoto, Saari Yoshida

Kei Fukumoto, Konomi Nakagawa, Sayaka

Maya Marshak

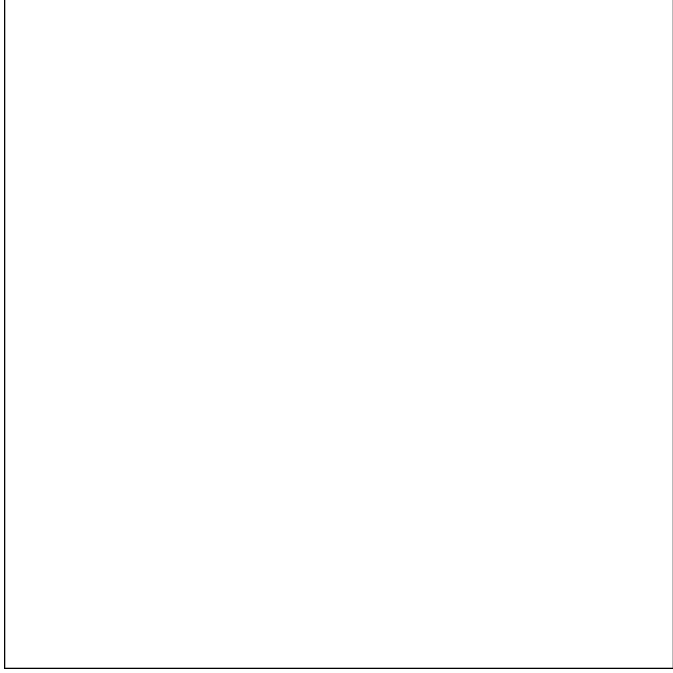
Nicola Rijdsdijk

の物語

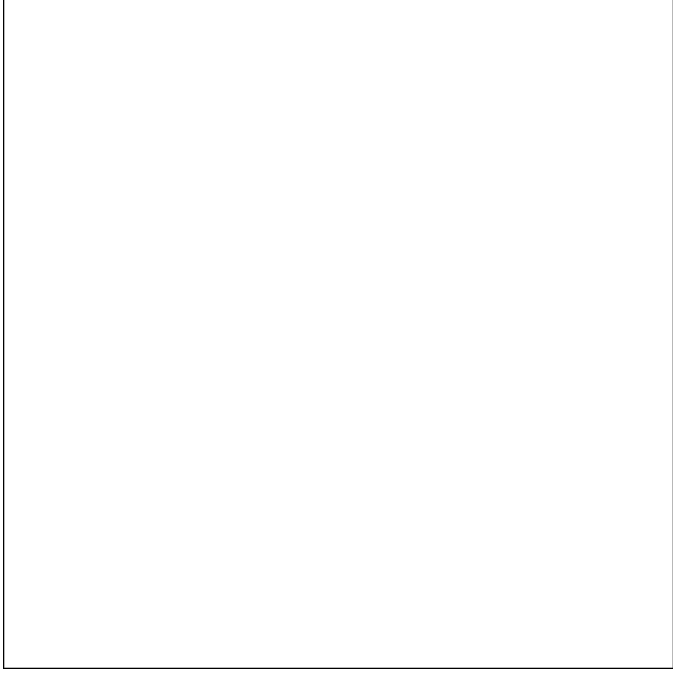
小さな種：ツンガリ・ブータイ

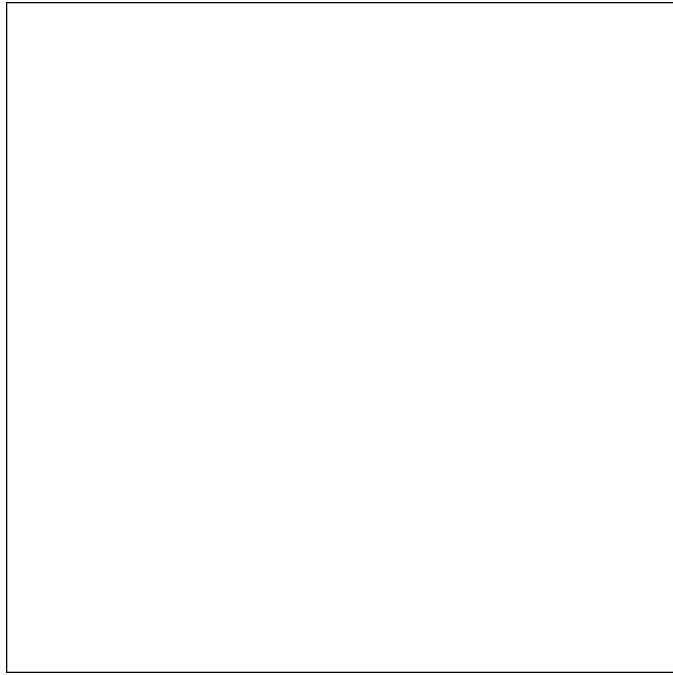
(imageless edition)

ツンガリは、2011年に亡くなりました。しかし、美しい木々を見て、今でもツンガリのことを思い出しています。

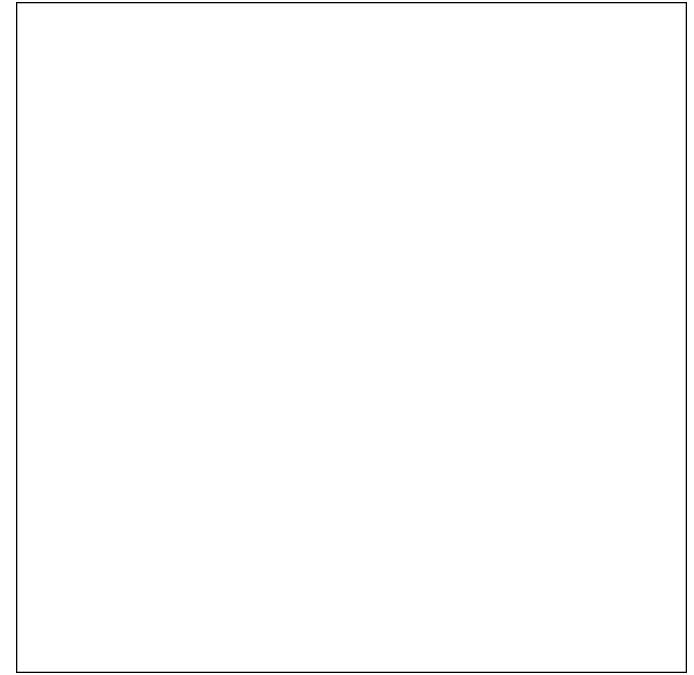


アフリカの東の方にあるケニヤ山のあたり
に村があります。そこでお母さんと畑仕事
をしている女の子がいました。女の子はツ
ンガリといます。

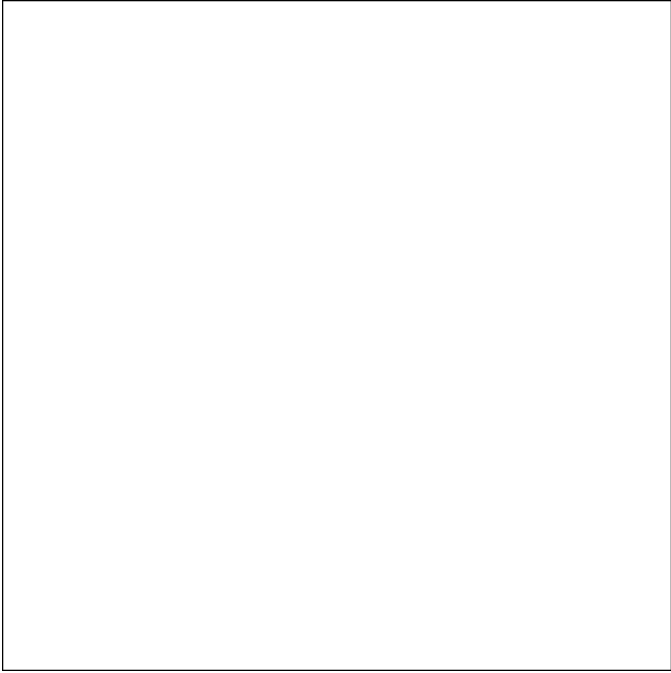




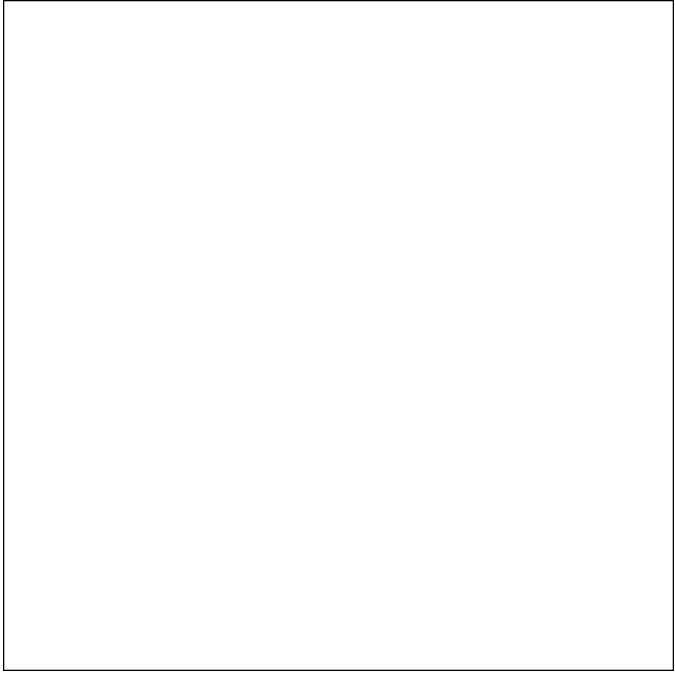
ワンガリは、外で遊ぶのが大好きでした。
ワンガリは、おうちの野菜畑に、マチェテ
を使って土を柔らかくします、暖かい土壌
に小さな種を植えました。



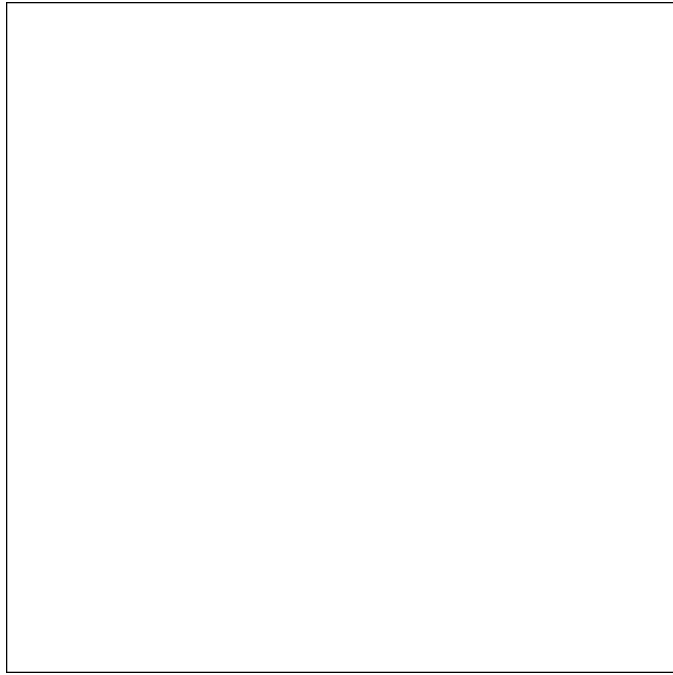
ワンガリは一生懸命働きました。世界中の
人々が彼女に注目しました、有名な賞をあ
げました。それは、ノーベル平和賞という
賞です。ワンガリは、アフリカの女性で初
めてノーベル賞をもらうことができたので
す。



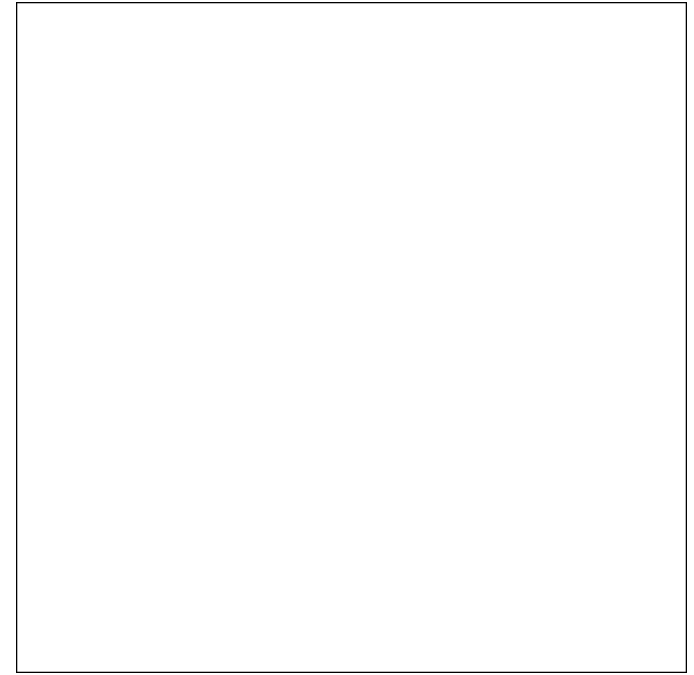
時が過ぎて、種が木になり、新しい木が森に育ち、川の水が再び流れ始めました。ワシガリの教えはアフリカ中に広まり、今日では何百万もの木々がワシガリの種から育ちました。



ワシガリは、一日の中で夕焼け後の時間が一番好きでした。暗くなって、畑の野菜が見えなくなるとワシガリはおうちに帰るのです。畑に沿って狭い小道をたどり、いくつか川を横切り家路につくのでした。

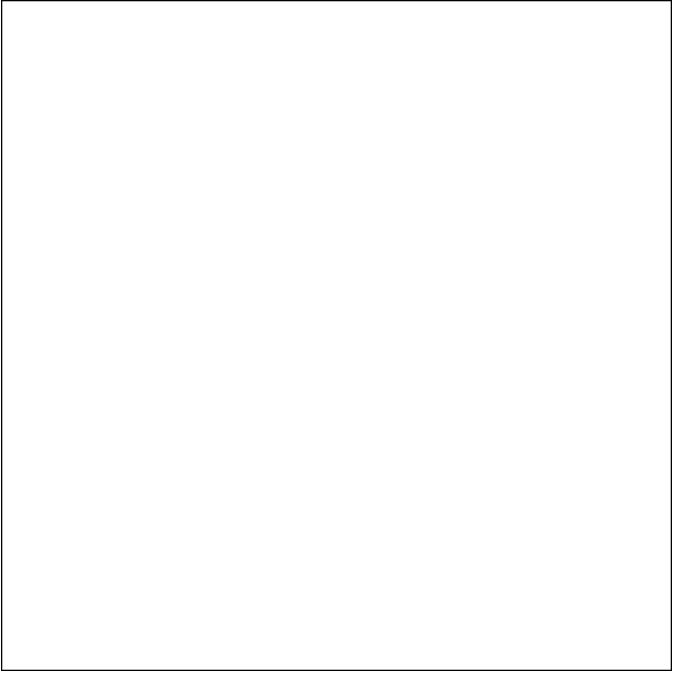


ワンガリは頭が良かったので、早く学校に行きたくて仕方ありませんでした。しかし、ワンガリのお父さんとお母さんはワンガリに学校に行かせたくありませんでした。ワンガリに、もっとおうちの手伝いをして欲しかったからです。しかし、ワンガリが7歳になった頃、ワンガリのお兄さんがお父さんとお母さんに、ワンガリが学校に行けるよう一生懸命頼んでくれたので、ついにワンガリは学校に行けることになったのです。

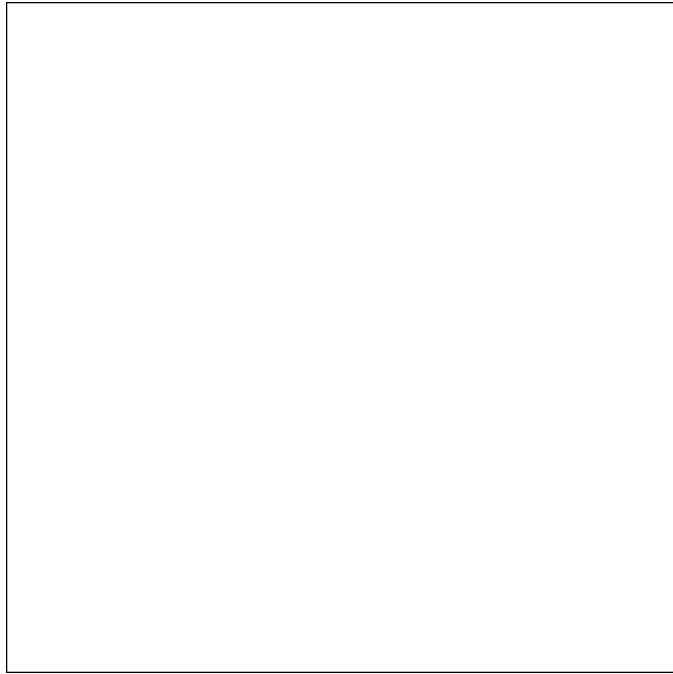


ワンガリはどうすればよいのかを知っていました。女性たちに種から木を育てる方法を教え、彼女たちは木を売り家族を養うお金を稼ぐことができました。みんながとても喜びました。ワンガリは人々が強くなれるよう、手助けをしました。

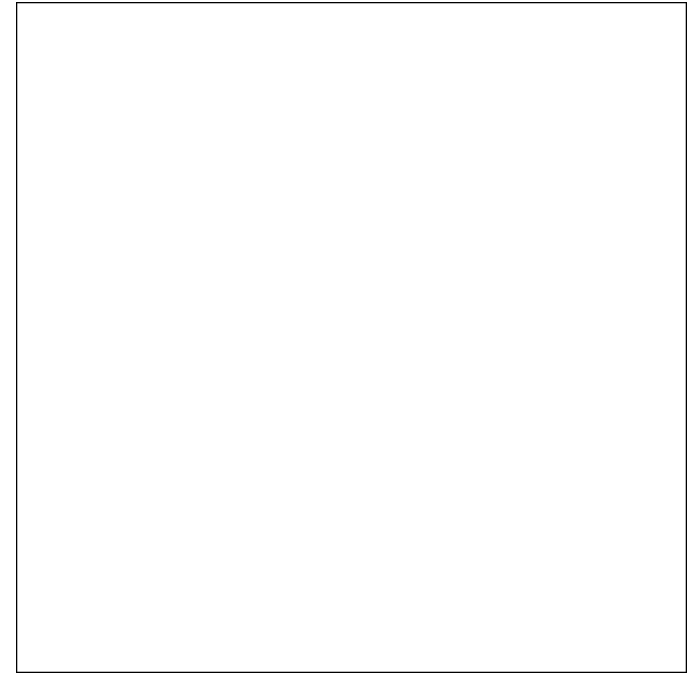
大学での勉強を終えると、ワシガリはケニアに戻って来ました。しかし故郷の環境は大きく変わっていました。巨大な農場があり一面に広がり、女性たちは火をおこすための木さえ手に入れることが出来ず、人々は貧しく子供たちはおなかをすかせていました。



ワシガリは勉強をするのが大好きでした！ワシガリはたくさん本を読んで勉強しました。学校で良い成績をおさめていたワシガリは、アメリカの大学に行くことになりました。ワシガリはとても喜びました！もっとたくさん世界のことについて学べるからです。



アメリカの大学でワンガリは知らなかったことをたくさん学びました。植物や植物の育て方も学びました。これらの勉強はケニアのきれいな森にある木々の陰でお兄ちゃんと遊んだワンガリの幼少期の記憶をよみがえらせました。



アメリカの大学でたくさん勉強しているうちに、ワンガリはケニアの人たちが恋しくなりました。ワンガリは、大好きなケニアの人たちを幸せに、自由にしてあげたいと思うようになりました。たくさん勉強すればするほど、アフリカにある自分の家のことを思い出しました。